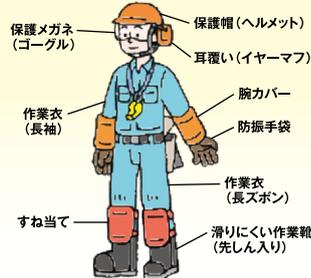
刈払機の正しい使い方

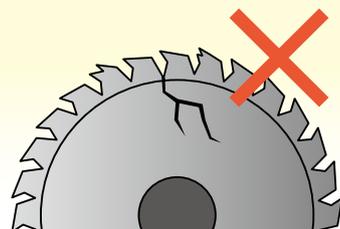
一般ユーザーの皆様に刈払機をより安全・快適にお使いいただくために

1 必ず取扱説明書を読みましょう。

●ご使用前に、製品に付属の取扱説明書をよく読んで充分に理解してから運転操作をしてください。
〈こんな時は運転操作しないでください。〉
病気・過労・体調の悪い時や妊娠中の場合、また、お酒や身体に影響を及ぼす薬を飲んだ時には作業を行わないでください。

2 作業に適した作業服・保護具を使いましょう。

●刈払作業では、切断した草、小石等がたくさん飛んできます。また、草むらの中には異物が隠れていることがあります。万が一のために保護具で守りましょう。
●すそじまり・袖じまりの良い刈払作業に適した長袖の作業服と保護めがね、フェイスシールド、イヤーマフ、防振手袋、作業靴、すね当てなどの保護具を着用してください。

3 作業前に各部の点検をしてください。

●各部品がきちんと取り付けられているか確認してください。特に刈刃は正しく取り付け、締め付けられているか確認してください。
●刈刃のひび割れや欠け等を点検し、異常がある場合には新品と交換してください。
●刈刃・ナイロンコードカッターは必ず純正品をご使用ください。
●機械の改造は行わないでください。

4 飛散防護カバーは必ず指定された位置に装着して作業しましょう。刈刃への巻き付きはエンジン停止。

●飛散防護カバーは作業者の方へ異物が飛ぶのを防ぎます。後ろへずらしたり、外して使用すると事故を招く恐れがありますので、必ず所定の位置にしっかり組み付けてください。
●草やひも等の刈刃への巻き付き、詰まりで止まった時は、必ずエンジンを停止させ、刈刃が止まったのを確認してから取り除いてください。

5 肩掛バンドやハンドルを作業し易い位置に調節してください。

●自然に持った時、刈刃が地上から数センチの高さになるよう、バンドの長さとハンドルの位置を調節してください。適正な長さに調整した肩掛けバンドを装着すると、転倒した場合に刈刃が身体に触れにくくなります。必ず肩掛けバンドを正しく装着しましょう。

6 燃料補給はエンジンが冷えてから行ってください。

●燃料補給の際は、周囲に火気のない事を充分に確認のうえ、必ずエンジンを停止し、エンジンが充分冷えてから行ってください。

7 飛散物や巻き付きを避けるため、あらかじめ作業現場の異物・障害物を取り除いておきましょう。

●刈刃が石や空き缶などの障害物に接触すると、思いがけない方向に飛び跳ねることがあります。

8 エンジン始動時は周囲を確認してください。

●エンジンを始動する時は周りに人がいないことを確認してから始動してください。火災の恐れがあるので、給油場所からは3m以上離れて始動してください。

9 エンジン始動時は刈刃を地面から浮かせてください。

●刈払機は遠心クラッチのため、エンジンの回転が高くなると刃が自然に回り始めます。急に刃が回り出すと刈払機が飛び跳ね危険です。
●メインパイプの下に角材やスタンドを当て、刈刃が地面や障害物に触れていないことを確認してください。

10 作業中は15m以内に人を近づけないでください。

●特に子供には注意してください。思わぬ事故の原因となることがあります。
●複数で作業を行う際は、15m以上の間隔を置きながら作業してください。

11 刈払作業中の作業者に近づく時は合図をしましょう。

●他の作業者に近づく時は合図をして、作業者がエンジンを止め、刈刃が止まってからにしてください。
●後ろから近づいて肩をたたいて知らせると、作業者が振り向いて脚などを切られるおそれがあります。前方からは鏡や笛など、あらかじめ安全な合図を決め、エンジンを止めてから話をしましょう。

12 傾斜地での作業は足場を確認して。

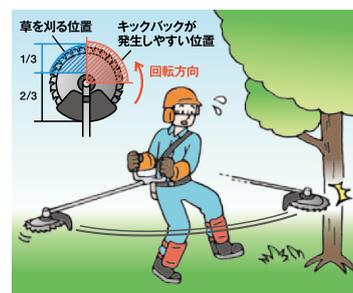
●傾斜地では足が滑りやすく、地面の状態も場所によって違います。谷方向ではなく、等高線上に作業するなど、安全な作業方法に気をつけ、一歩ずつ足場を確かめながら作業をしましょう。複数で作業を行う際は、傾斜の上下位置での作業は危険です。

13 キックバック現象の無い、能率のあがる刈刃位置で作業しましょう。

●一般的な刈払機は、刈刃が反時計回りに回転します。そのため図の部分で草を刈ったり、硬いものに接触すると機体が右側に大きくはねるキックバック現象が発生することがあり、思わぬ事故につながることがあります。

●雑草等を刈る時は、刈り払った草類がからみつかない刈刃の位置、刃の左側の前1/3「刈払い対象物に当てる位置」で刈りましょう。

●刈刃を岩、石、立木、切株等障害物に接触させると作業者側に跳ね返され刈刃と接触する恐れがあるので、刈刃を無理に振り回したり、木へ押し当てたり、地面に食い込ませないように注意します。刈払機で樹木の枝を伐採するのも危険です。

●また、刈刃を膝より高く持ち上げて使用すると飛散物が顔面に飛んでくることがあります。必ず膝より低くして使用してください。

14 刈払作業を快適に行うために。

●正しい作業姿勢で刈払作業を行いましょう。

（例）:U（両手）ハンドルの場合

・肩掛けバンドを着用し、腰バンドを締め付けてください。

・製品を肩掛けバンドに装着してください。

・両手で左右のグリップを握り、両足を肩幅よりやや広く広げてください。製品を片手で使用しないでください。

・グリップに親指を掛け、他の指とともにグリップを囲むように握ってください。

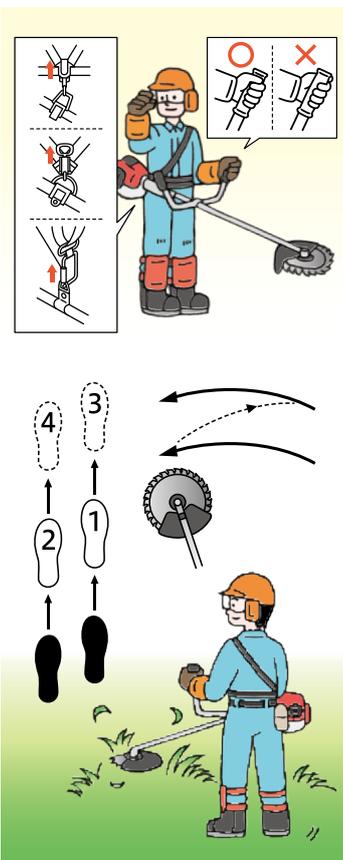
・肩掛けバンドには緊急離脱装置が付いています。火災など緊急の場合は緊急離脱つまみ（緊急離脱ピン）を上に引き、製品を身体から離してください。

●連続的な作業ですから、体と刈払機が一体となって重心移動を行い、リズムある動作で作業すれば体がラクです。

・メインパイプを右から左へ振り、刈刃の左側で雑草を刈ってください。図のように右足を前に出し、すり足で前進します。右足から前に進み左足がこれに続くという進み方をしてください。

・草が飛び散り、キックバックを起こしやすくなるので、往復刈りや大振りをしないでください。

・刈り幅は1.5mぐらいが適当です。

・刈刃を左側に5～10°傾けて刈ると草が左側に寄るので作業しやすくなります。

15 機械の調子が悪い時は、すぐ作業をやめてください。

●機械が突然ぶれたり振動したり、異常と思われる時はすぐエンジンを停止して、原因が分かり、修理が終わるまで機械を使用しないでください。

16 長期格納時は燃料を抜いてください。

●長期間使用しないで格納する時は、燃料タンク・気化器内部の燃料を抜いてください。

●燃料が残っていると変質してエンジンの不具合を起こしたり、火災の原因となります。

●取扱説明書の指示に従って、点検整備を行ってください。自分で修理ができない場合には、販売店へ修理を依頼してください。

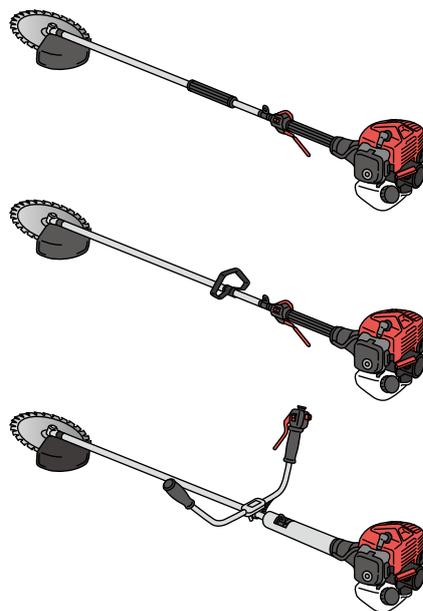
用途や場所に適した刈払機や刈刃を選択しましょう。

●刈払機には「肩掛式」と「背負式」があり、肩掛式には、ハンドルの種類により「ツーグリップタイプ」、「ループハンドルタイプ」、「U（両手）ハンドルタイプ」があります。

●排気量により適した草の種類や使用場所等があります。各社のカタログ等を参考にお選びください。

●刈刃には、チップソーやナイロンコードカッターなど多くの種類があります。作業地、地形、雑草の種類や生育時期、繁茂状態など対象物に合った刈刃を使用してください。

〈ナイロンコードカッター〉

柔らかい草や作業場所が塀の側や障害物に接近した作業の場合は、キックバックが生じないナイロンコードカッターの使用を検討しましょう。
ただし、チップソーで作業する時よりも、エンジンの回転数を上げる必要があることや、刈刃からの飛散物が多くなることがあります。ナイロンコードカッターを装着できない機種や、専用の飛散防護カバーもありますので、取扱説明書をよく読んでから交換しましょう。
使用時には装置からコードを伸ばしすぎないようにします。取扱説明書に指示された長さに切りそろえてから作業を行います。（標準で10〜15cm）

作業中の主な事故原因（まとめ）

生物系特定産業技術研究支援センター（農作業安全情報センター）
「動画で見る危険作業事例」より

●キックバック

刈払機では、回転する刃（特に前端から右側部分）に障害物や地面が当たった場合、回転方向と反対側（右側）に刃が跳ね返ってしまうこと（キックバック）が起こります。跳ねた刈刃が作業者や周囲の人にあたってしまうと重大な事故につながります。このため、右側で草を刈らないよう、往復刈りではなく刃の左側のみで刈るようにします。また、作業者の周囲には近づかないようにします。

●巻き付き

刈払作業中に、草や落ちていたひも等が刈刃に巻き付いて止まることがあります。このとき、刃は巻き付いたものの抵抗で止まっているだけなので、エンジンを切らずに取り除くと、刃が再び回り出して手を切る恐れがあります。巻き付いたり絡んだりしたものを取り除く際は、必ずエンジンを止めることが必要です。

●飛散物

作業場所に空缶等のゴミや障害物が隠れていると、刈刃に当たった際に高速で飛散し、作業者や周囲の人の負傷事故につながります。事前に作業場所を確認するとともに、飛散物防護カバーを適切な位置に取り付けることや、保護眼鏡、フェイスシールド等の防護具を身につけることが重要です。

一般社団法人 日本農業機械工業会　刈払機部会

〔刈払機部会員〕井関農機㈱、㈱岡山農栄社、㈱共栄社、㈱クボタ、㈱新宮商行、㈱ニッカリ、ハスクバーナ・ゼノア㈱、日立工機㈱、本田技研工業㈱、㈱マキタ、㈱丸山製作所、山田機械工業㈱、㈱やまびこ（順不同）